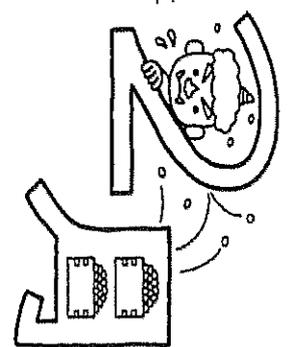


## 2026年 矢向あけぼの保育園だより



先週末に、関東でも積雪がありました。子どもたちは、積もった雪で『遊んでみた、食べてみた』と話していました。雪はすぐ融けてしまいましたが、冬という季節を体験する機会になりました。雪景色を美しく感じたり、雪の降るときの音、街が静かなる感覚は好きなのですが、雪が積もった時の大変さや足元の不安さが先に出てしまい、喜べない歳になりました。

子どもたちのように、素直に季節の変化を楽しんでいる感覚を、持ち続けたいですね。

### 節分(鬼)と向き合う子どもたち



矢向あけぼの保育園では、節分の日は年長児が火おこしをし、鯛を焼いてくれます。鬼が嫌いな、鯛の匂いと終で、『終鯛』をつくります。鬼を絶対に入って来ることができないよう、念入りと考えて飾っていきます。たくさん作れるわけではないので、終一枚だけ扉にはっている所もあり、鬼への対策を「これでもか」と行っています。

保育園で行う豆まきは、日本の伝統行事の一つではありますが、子ども自身の中にあるマインナスなところと向き合う機会だと、とらえています。自分自身「こんなところ嫌だと思っている」「苦手だけど本当は頑張りたい」と日々の中で葛藤している事を、絵や言葉で表現し鬼を払う事で自身の「嫌だなー」と思っていたことを乗り越え、自信をつけていく良い機会にしたいと考えています。

今年の矢向あけぼの保育園に来た鬼は、「you tube」「おなかいたい〜」「ゲームしたい」と言いながらやってきました。怖がって逃げながらも、しつかり豆を投げて鬼を追い払うことができました。鬼の報告をしに来たくれた、年長さんからも、「自分の(弱い心)鬼が来たんだ。だから、you tube ばかりにならないようにするよ。」と教えてくれました。

これから先、良い事だけではなく悩みながら乗り越えていく事も成長の一つです。節分が終わると暦では春にかわり、ここからが新しい年のスタートだといふ人もいます。悪い厄を落とし、新しい気持ちで自信をつけて次のステップへ進んでいってほしいと思います。

### 高野しのぶ先生の「いのちのおはなし」を聞いて

2月14日(土)に助産師の高野先生の講演をお願いしました。「包括的性教育とは何か」「性教育を、どのように進めていったらよいのか」まずは、職員を中心に「知る」ことから始めていこうと、このような企画をしました。

正直、私自身もきちんと性教育を小さいときから受けてきたわけでは、ありません。ですので、子どもたちにどのように実践していけばよいのかわからない事だらけです。ですが、先生のお話を聞くと、これは人権教育なのだと思います。保育の現場では、「ひとりひとりを大切に」というワードは、どの現場でも言われています。どんなに小さい子どもでも、相手を尊重することが原点にあり、おむつ替え、着替え、肌に触れる事すべて同意を得ながら進めていく事です。自身を大切に接してもらう事で、自分を大切にすることが育ちます。自分を大切にできる気持ちは、自身の命を守ることもあります。そのような気持ちは、相手に対しても丁寧に関わろうとする気持ちが育つのだという事です。ご家庭でも、日々の忙しさの中に、ついつい大人の都合で着替えさせてしまう事もあると思います。大人が全ての場面で、対応していく事が難しくても意識していく事が大事だと感じました。

2時間ほどの短い時間でしたが、内容はとても深いもので、来年度は保護者と一緒に考えあつていきたいと思える講演でした。保護者からも1名参加してください、皆さんで聞きたいとおっしゃっていました。来年度も、この学びを継続していきたいと考えています。